



令和6年度 全国学力学習状況調査 本校の結果について

保護者・地域の皆様には日頃より本校の教育活動にご支援・ご協力を頂き誠にありがとうございます。さて、4月に6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の本校の結果・分析についてお知らせします。この調査は児童の学力や学習状況を把握し、今後の学習指導に役立てることを目的とし、本校もそれを踏まえて授業改善などに生かしております。なお、結果はあくまで学力や学習状況の一側面をとらえたものです。

1. 学力検査正答率の結果から（全国平均との比較）

教科	状況	見解
国語	下回っている	・2教科とも無回答は少なく、選択式問題でよく解けていました。一方で、記述式問題での正答率が低い傾向にあります。今後は基礎をしっかりと固めてから、応用問題にも取り組んでいく必要があります。
算数	下回っている	

2. 各教科の領域別正答率の結果から（全国平均との比較）

領域	国語の状況	見解
話すこと 聞くこと	やや下回っている	・文章の構成を考えながら、書き表し方を工夫して書くことが困難でした。今後は字数制限のある設問への対応に力を入れ、言語活動の充実を図っていきます。また、中間層から上位層への引き上げについても今後の課題であるといえます。
書くこと	下回っている	
読むこと	ほぼ同程度である	

領域	算数の状況	見解
数と計算	下回っている	・「図形」の問題の正答率は例年より高いものの、「数と計算」の問題での誤答が目立ちました。今後は、学年ごとに系統立てて配置された学習内容を、着実に身につけていくことができるよう、復習に力を入れていく必要があります。計算力の向上をその第一歩として取り組んでいきます。
図形	ほぼ同程度である	
変化と関係	下回っている	
データの活用	下回っている	

3. 児童質問紙の結果から

【良い面】

- ・国語や算数の勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と答える児童の割合は、全国平均より高い。
 - ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれているか」に関しては、「そう思う」と答える児童の割合は、全国平均より高く自己有用感が高い。
- 児童と児童の関係、児童と教師の関係性を大切にしながら、今後も自己有用感を高めていきます。

【課題と思われる面】

- ・平日、休日ともに、学習時間は全国平均を大きく下回っている。
- 確かな学力の定着を目指した教育活動を行い、家庭と連携しながら、子供たちの豊かな学びと成長を保障していきます。

4. 出題された問題と解答の状況

国語

小学校国語 大問2二

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題

みんな仲良く「たてわりはん」
わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人も仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対決で行います。上級生が下級生に応援の仕方を教えたり、下級生を楽しめるように、やさしうでの作戦を考えたりします。「みんなが楽しそうして書いて」という2年生や、「年級差をいっしょに縮めて楽しい気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールを上げるようにしています。

「たてわり遊び」に関する文章の空欄に、次の条件に合わせた内容を書く。

条件①「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。

条件②下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。

下級生に聞いたこと
○1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
○3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
○4年生 みんなが楽しそうだった

正答例 (正答率 56.7%)	「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうだった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができるところだと思います。
誤答例	たてわり遊びをしている下級生の1年生は「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」や、3年生は「好きな遊びや新しい友達が増えた」と答えてくれました。このように、みんなたてわり遊びを楽しんでいました。



事実と感想、意見とを明確に区別せずに、事実を自分の考えのように書いて、条件①を満たせなかった児童がいた(線部分)。

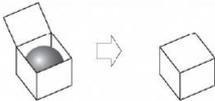
- 事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題が見られた。
- 自分の考えなどを記述していても、必要な情報を取り出すことや表現の効果を考えることに課題が見られた。

⇒説明や解説などの文章を読み、分かったことや考えたことをまとめる際に、高学年においては、内容の中心となる事柄や書き手の考えの中心となる事柄が文章全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉える力が求められています。

算数

小学校算数 大問3(3)

球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題



直径22cmの球の形をしたボールがぴったり入る立方体の体積を求める式を書く。

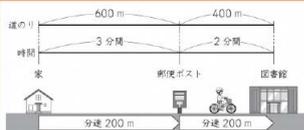
正答 (正答率 36.9%)	$22 \times 22 \times 22$
誤答例	① 22×22 ② 22×3.14 など ③ 22×6 等



深い理解を伴う知識の習得ができておらず、体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察できていない児童がいた。

小学校算数 大問4(4)

速さの意味について理解しているかどうかをみる問題



家から郵便ポストまで分速200m、郵便ポストから図書館まで分速200mのとき、家から図書館までは分速何mかを求める。

正答 (正答率 54.4%)	分速200m
誤答例	① 分速400m (24.3%) ② 分速1000m (3.1%)



速さなどの単位量当たりの大きさの意味や表し方についての理解に課題がある児童がいた。

- 図形や単位量当たりの大きさ(速さなど)について、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られた。

⇒図形の学習では、図形を構成する要素に着目し、図と言葉や数とを結び付けて、図形の性質や計量について説明できるようになることが大切です。速さの学習では、数量の関係に着目し、式に表して計算したり、計算を日常生活に生かしたりすることが重要です。また、計算結果の意味について、日常生活の場面に即して判断したり、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して考えたりすることも重要です。

5. 取組の充実・改善の方向性

- ◇全国平均を下回っている状況を改善するためには、日常の授業を工夫していくことと、前学年の学習内容の振り返りも大切と考えています。
→家庭学習や宿題の取組を日常化し、復習をする習慣をつけて、学力の定着を図ります。
- ◇日常の授業の中で、自分の考えをノートに整理して記述したり、条件を設定した発問を取り入れたりするなどしながら、学力の向上に努めます。
→ノート指導を見直し、充実を図ります。
- ◇子どもたちが「やる気と自信」に満ちた学校生活を送ることができるように、教職員が一丸となって教育活動の改善に向けて取り組んでいきます。

1 学習習慣の定着を！



自ら計画を立て、やり抜く姿を見守りましょう

○ 家庭では子どもが自ら学習計画を立てて実行する中で学習意欲を向上させ、望ましい学習習慣を確立させていくことが大切です。子どもが学習に取り組む姿をほめるなどして自信をもたせるとともに、最後までやり抜くことの大切さを伝えましょう。

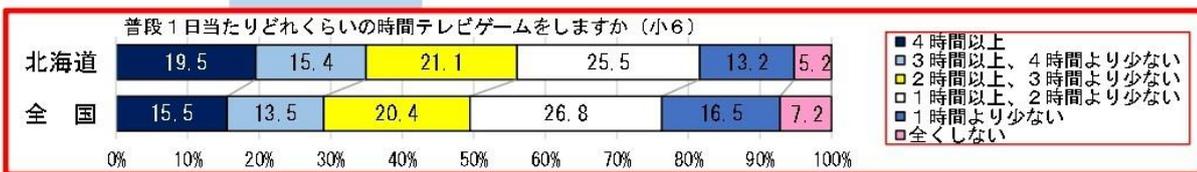
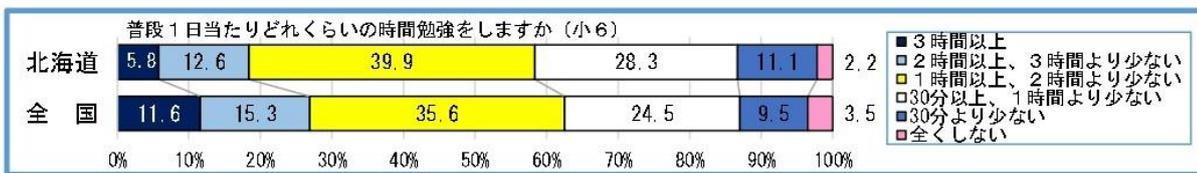
子どもとルールを作りましょう



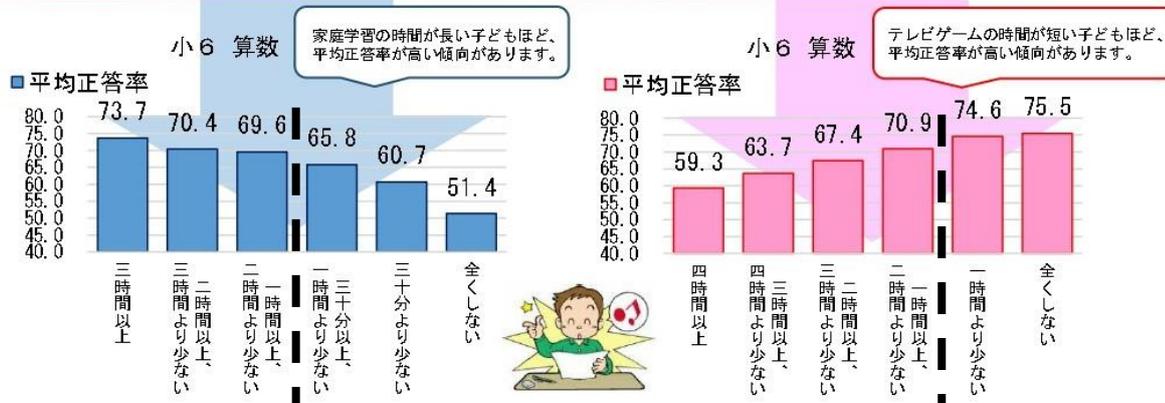
○ 本道の子どもたちは、1日の中で、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームなど）をする時間が、全国の子どもたちに比べて長い傾向があります。家庭でルールを作り、規則的な生活習慣を整えましょう。

本道の子どもたちの学習習慣（令和3年度 全国学力・学習状況調査より）

○ 1日当たり1時間以上勉強している子どもの割合が全国と比べて低く、1日当たりのテレビゲームをしている時間の割合が全国と比べて高いことから、学習習慣の定着を図る必要があります。



本道の子どもたちの学習習慣と平均正答率の相関（令和3年度 全国学力・学習状況調査より）



Point1

・本校の子どもたちも、テレビゲームやスマートフォンをする時間が、全国の子どもたちに比べて長い傾向があります。また、「スマートフォンやタブレットは持っているが、約束はない。約束を守っていない。」という子どもも多いようです。今一度、ご家庭でのルールの確認をお願いいたします。

Point2

・1日当たりの学習時間の目安は、「学年×10分+10分」といわれており、6年生ですと70分の学習時間が必要ということになります。児童質問紙の回答から、1時間以上学習している子は**52.1%**、1時間未満の子が**47.9%**います。上の表からも分かる通り、1時間以上学習している子どもほど、平均正答率が高い傾向があります。
また、テレビゲームの時間についても、1時間以上ゲームをしている子どもほど、正答率が下がる傾向があります。

学習時間は1時間以上！ゲーム時間は1時間以内にしよう！！